

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492000201	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターごてん		
所在地	(〒254-0061 ) 神奈川県平塚市御殿2-19-9		
サービス種別等 定員	認知症対応型共同生活介護	定員計 ユニット数	18名 2ユニット
自己評価作成日	平成30年3月12日	評価結果 市町村受理日	平成30年7月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>笑顔の花咲くマイホームを目指し家庭的な雰囲気大切にしながら認知症の方の暮らしをサポートしています。 笑顔が絶えない暮らしを提供していかれるように日々のケアに努めています。 H28年12月より医療連携加算を習得し、ご入居者様の健康管理を行っていただいております。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下ビル9階		
訪問調査日	平成30年3月28日	評価機関 評価決定日	平成30年6月29日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所概要】</b> この事業所は、JR東海道線平塚駅からバスで10分、バス停からは徒歩5分程のところにある。最寄駅は平塚駅になるが、小田急小田原線伊勢原駅からもバス便が出ている。周辺は、戸建てが並ぶ閑静な住宅街である。建物は、鉄骨造りの3階建てで、2・3階部分を当該事業所が使用している。1階には、同法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、運営推進会議や災害・避難訓練、ニチイ祭りなどの行事は、2事業所合同で開催している。</p> <p><b>【スピーチロックをしないケア】</b> 職員全員が、法人が主催する高齢者虐待防止、身体拘束排除に関する研修を受けている。当該事業所独自の取り組みとしては、利用者に対して、スピーチロックをしないケアを心がけている。管理者は、職員に対して、「座っていて」といった言葉による行動の制止は、身体拘束に該当するといった側面だけでなく、命令的な言葉かけや口調が、高齢者虐待へとつながるきっかけになることを説明している。ミーティングで話し合いを重ねながら、不適切だと思われる言葉使いや態度が見受けられた時には、管理者やユニットリーダーだけでなく、職員間でも注意し合える職場環境を作っている。</p> <p><b>【受診支援と医療連携体制】</b> 事業所では、協力医が訪問診療に訪れる際に、前もって、利用者の生活や活動状況、バイタルサイン、医師に相談したいこと、処方を希望する薬品名などを記載した情報提供シートをFAXで送信し、適切で速やかな受診を支援している。入居前からのかかりつけ医や専門医への受診は、家族が対応しているが、利用者の血圧手帳を家族に託し、情報提供が必要な場合は、医師宛てに手紙を書いている。家族から報告を受けた受診情報は、連絡ノートや業務日誌、経過支援表に記録して、職員間で共有している。平成28年12月から、医療連携体制加算を算定し、訪問看護師が日常的な健康管理を行い、医療ニーズが必要になった場合に適切な対応がとれる等の体制を整備している。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイ家センターごてん
ユニット名	歩

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲示してスタッフ1人1人が実践に繋げるように意識しながら業務にあたっている。	理念は、各ユニットのフロアと事務室に掲示をして意識づけをしている。入職時には、管理者が理念について説明している。職員ミーティングでは、日々のケアが理念に沿っているかを話し合い、理念の反映に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーに買い物に行ったり、気候の良いときに公園等に散歩に行っている。	ニチイ祭りや夏祭りなどを開催し、地域の方々と交流している。ニチイ祭りでは、事業所内に福祉用具を展示し、管理者が認知症について講話している。ピアノやギターなどを演奏するボランティアが、毎月来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りの一環で認知症ケアについてもミニ講座を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族と施設の管理者が会議に参加し、会議で出た意見を他のスタッフと共有し、サービス向上へ繋げている。	運営推進会議は、利用者家族、隣家に住んでいる事業所の土地オーナーが参加して、年6回開催している。利用者の暮らしぶりや活動状況を報告し、意見や要望をもらっている。「イベントの時間が長い」との意見をもらい、内容の見直しを行った。短時間で終了するよう工夫し、利用者全員が、負担なく参加できるようになっている。	地域包括支援センター職員や地域住民の代表、地域密着型サービスの知見者などの方々に対して、会議に出席していただけるよう、引き続き働きかけを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員に毎月来てもらっている。	ひらつか地域介護システム会議に参加して、市内のグループホーム事業者と情報交換をしている。市の介護保険課に外部評価結果・目標達成計画を持参している。介護相談員が毎月来訪し、利用者の意見や思いを聞き取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの出入り口は施錠を行っているが玄関の施錠はしていない。ミーティング等で話し合いを行いながら取り組んでいる。	職員全員が、法人が主催する高齢者虐待防止、身体拘束排除に関する研修を受けている。スピーチロックについての話し合いを行い、利用者に対する言葉がけに注意を払っている。ユニット出入り口は、ドアの先がすぐに階段であるため、安全面を優先し、家族の了解を得て施錠している。外に出たようなそぶりが見受けられた利用者には、手伝いを頼んだりして場面転換をしている。職員が付き添って散歩に出かけることもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為に繋がらないようにスタッフ間でコミュニケーションをとりながらケアにあたっている。今年度は支店研修を受けた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は後見人制度を利用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく、分からない事はいつでも聞いてきていただける体制をとっている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に一度満足調査を行い、改善に努めている。</p>	<p>家族の来訪時や介護計画の見直しの際に、利用者の暮らしぶりを伝え、意見や要望を聞き出している。ケアに関する要望は、申し送りノートや情報ノートに記入して、職員間で共有している。法人が、利用者家族を対象に満足度調査を実施し、結果を事業所にフィードバックしている。</p>	
----	---	---	------------------------------	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別に話しを聞いて意見や提案をして貰い、業務に反映させるようにしている。	職員からの意見や提案は、月に1度開催する業務ミーティングやケアカンファレンス、毎朝の申し送りで聞いている。職員が、連絡ノートに自らの提案を記載し、回覧をしながら他の職員の意見を募ることもある。出された意見は、ミーティングで検討し、日々のケアや業務に反映している。新任の職員には、管理者が定期的に面談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、職員のスキルアップを図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修では拠点だけでなく、支店で行う研修にも参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市内のグループホーム連絡会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時にご本人様からも話を聞きどうい生活を送って行きたいかを聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より、ご家族の話しを聞いて、ご家族の要望を取り入れたプランを作るように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までに時間がかかることもあり、介護サービス未利用者には、入居までの間他のサービスを利用出来るように紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のご入居様の出来ること出来ないことを把握し、一緒に行いながら日々を過ごすようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、なるべく面会に来ていただき、関りを持っていただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様の友人等の面会に制限はしておらず、いつでも来ていただけるようにしてあり、実際に来られている。	事業所には、利用者の隣近所に住んでいた知人やかつてのサークル仲間、信仰する宗教の関係者などが来訪している。その際には、利用者の居室に案内し、お茶を出してもてなしている。家族に連絡調整をして、利用者が馴染みの美容室や外食、一時帰宅などができるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりの時間も持ちつつ、他の方とも関れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらを退去されたご家族が遊びに来られたり、イベントへの案内を送っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前は事前面接で、入居後はご本人とのコミュニケーション(困難な場合は行動やしぐさ等)を通して要望の把握に努めている。	入居時のアセスメントや日々の関わりの中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。新規の入居者や落ち着かない様子が見られる利用者には、センター方式の24時間生活変化シートを活用し、利用者の状態の変動や本人が話した内容、職員の気づきを記録して、職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接にて、ご本人、家族に生活歴、嗜好等を聞き取ることで把握に努めている。入居後も本人とのコミュニケーションを通して状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態やご本人のできる事を入居者と接することで現状把握に努める。併せてスタッフからも現状を聞き取るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね6ヶ月に1度介護計画の見直しと並行してご本人、家族、介護スタッフへのモニタリング及びサービス担当者会議での意見交換を行う。その結果を介護計画に反映させる。	介護計画は、毎月のケアカンファレンスや職員が記録する日常生活支援シートからの情報をもとに、管理者、計画作成担当者、居室担当職員が参加するサービス担当者会議で話し合い作成している。通常は6ヶ月ごとに見直しをして、必要に応じて、医師の意見も参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様の個別の記録に気づいた点を記入し、ケアの実践についてのアイデアを申し送りノートを活用し職員間で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の状況、ニーズに応じて、柔軟にサービスを提供できるように支援を行っている。 訪問マッサージの導入等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者様の状況、希望にもよりますが、近所のスーパーにスタッフと共に行って、好きな物を買うなどの支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人またはご家族に、往診医による受診か今までのかかりつけ医による受診か選択できる。いずれの場合も適切な医療が受けられるよう支援している。	事業所協力医が月に2回、訪問看護師、歯科医（希望者のみ受診）は、毎週訪問している。入居前からのかかりつけ医や専門医への受診は、家族が対応している。家族から報告を受けた受診情報は、連絡ノートや業務日誌、経過支援表に記録して、職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護が来られている。介護スタッフから、ご入居者様の状況を伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先に行き、状況を確認し、病院関係者と情報交換を行い、退院後想定される新しいニーズについて相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針はあり、ご家族と話し合い終末期をどう過ごすかを話し、主治医や看護師と情報を共有し支援を行うようにしている。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。平成28年12月から、医療連携体制加算を算定し、事業所内で看取りケアに関する研修を実施して、支援体制を整えている。2年間に3度の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で応急手当、初期対応について実施している。緊急時の報告、連絡体制も研修時繰り返し確認行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、実施時に判明した問題点はミーティングで話し合い、解決に努めている。	防災・避難訓練は、年2回行っている。地域の方々に訓練の実施予定を知らせ、参加への依頼をしているが、今のところ協力は得られていない。法人の備蓄リストに則して、飲料水や食料（缶詰、おかゆなどのレトルト）を3日分程度保管している。	昨年度の目標達成計画は、「防災訓練時に、近隣の方にも参加していただく」となっています。運営推進会議の項目とも関連していますが、地域との協力体制が構築できるよう、地域の方々に向けて働きかけることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様にあった声かけを行うように心がけている。 スタッフ間でもお互いに注意をするように心がけている。	法人が、個人情報保護についての研修を実施している。管理者は、法人テキストに沿って、研修の補足説明をして、周知徹底を図っている。声の大きさやトーンに気を配り、命令調の声かけをしないように努めている。居室には、ノックをして利用者の許可を得てから入室している。個人情報を含む書類は、鍵のかかる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様に聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様のペースで過ごされている。ご自分からしたいことを行ってこられる方には希望に添えられるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様のご希望をを伺いつつ、季節感や気温に配慮し、アドバイスするように気をつけている。訪問理美容が1～2ヶ月ごとに来てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付けが出来る方には一緒に行っていただいている。	献立作成、食材の購入は、各ユニットごとに職員が交替で行い、週の1～2日は専門の業者に委託している。利用者は、職員と一緒に食器洗い・拭きやお茶入れなどを行っている。敬老の日には、本職のすし職人がボランティアで来訪し、利用者を楽しませている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様の状態に合わせて提供をするようにしている。食事量・水分量は毎回記録に残し、摂取量が少ない方には好みのものを提供して促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員ではないが、訪問歯科で管理して貰っている。 毎食後口腔ケアは行っていて、出来ない方は介助で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行いながら、失敗が少なくなるようにスタッフ間で話し合い支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握している。利用者個々のタイミングに合った時間帯を見計らい、トイレに誘導している。その際には、利用者の羞恥心に配慮して、さりげない声かけをしている。夜間帯は、睡眠を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日行い、便秘傾向にある方には、水分を促したり食事に注意をしている。それでも出ないときは主治医に相談を行うようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は基本的には決まっているが、ご入居者様の意思を確認して行うようにしている。 身体の状態に応じて、併設する小規模多機能で機械浴を使い入浴されている方もいる。	入浴は、週2～3回、午後の時間帯を原則としている。利用者の体調によっては、清拭やシャワー浴に変更している。入浴時間帯も、利用者の希望によって臨機応変に対応している。入浴を好まない利用者には、無理強いをせず、時間をずらしたり、対応する職員を換えるなどの工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の習慣に合わせて午睡をしてもらったり、就寝時間を変えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は一箇所にまとめてあり、すぐに観れるようにしている。また処方内容が変更になった場合はすぐに伝えて変更後の状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の好きな事をさせていただいたり、得意な事を積極的にさせていただいたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により一緒に買い物に行ったり、散歩に行かれるようにしている。	天気のよい日には、車椅子の方も含めて、2~3名ずつのグループで、散歩や買物に出かけている。外出をしない利用者も、ベランダでの外気浴で気分転換を図っている。外食や墓参りなどの個別外出は、家族が付き添って出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預らせていただいて、欲しいものが買える様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様宛てに来た郵便物はすぐにお渡しをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には季節の飾りつけを行い季節感を出すように心がけている。	リビングは、フロアの中心に位置し、日当たりがよく広々としている。壁面には、利用者の塗り絵や折り紙の作品、行事時の写真などを掲示している。テレビの前にも椅子を並べ、他の利用者に気兼ねすることなく楽しめるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものやなじみ物をお持ちいただくように話をしている。	居室は、エアコン、クローゼット、照明器具、カーテンが備え付けになっている。使い慣れた家具や好みの置物などを持ち込み、利用者が落ち着いて過ごせるようにしている。位牌や仏壇を置いている利用者も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立した生活を送っていただくように、行き過ぎたケアにならないように心がけている。		

事業所名	ニチイケアセンターごてん
ユニット名	陽

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲示して、スタッフ1人1人が実践に繋げるように意識しながら業務にあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の買い物などで、近くのスーパーやドラッグストアなどにご利用者様と一緒にいき、地域の人との交流を図る機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りの時などに、認知症講座という形や、普段の施設見学にて地域の人々の理解を図る機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に、ご利用者様のご家族と施設の管理者が会議に参加し、会議で出た意見を他のスタッフと共有し、サービス向上へ繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員に毎月来ていただいて、ご利用者様と話す機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで研修という形でスタッフ1人1人が学ぶ機会を作っている。 フロアの入り口に関しては、転落防止の為施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても、ミーティングなどの研修や会社の研修で学ぶ機会を作り、スタッフ1人1人がしないように意識しながら取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどで、それらを学ぶ機会を作っている。又、個々で必要性を感じたときは実際に活用し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、不安な部分が無いかを確認し、十分に理解していただいてから、納得を図り契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からご利用者様やご家族の意見を元にケアを行い、1人1人のご利用者様の事を考えながら業務にあたっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで、スタッフから運営に関する意見を聞いて、出来る範囲で運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ1人1人の勤務可能日や、可能時間を聞き、なるべく要望に沿ったシフトを元に1人1人に就業して頂いている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域や他事業所で行われる研修に行って、外で学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	実践者研修などの同業者が集まる研修などに行かせて頂き、サービスの質の向上に繋がる情報を得て、実際の業務に生かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に、アセスメントという形でご利用者様と話をする機会を設け、本人の要望や困っている事などを伺うなどして関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等からの要望や困ったことに関しても、アセスメントという形で伺い、実際のケアに生かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望、ご家族の要望を伺った上で必要な支援を見極め、プランに組み入れ、そのプランに沿ったケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に「自分の家」という意識を持ちながら業務にあたり、ご利用者様との関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅での様子と施設での様子をご家族と共有し、その中でスタッフが出来る事をやり、ご家族に出来ることはやって頂くなどして、共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人には面会を通じて来て頂いたり、場所に関してはご家族に連れて行って頂いたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様1人1人の関係を普段の生活の中で見極め、それを元に食席などの位置を決めたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了したご利用者様やご家族には、時々連絡を入れたり、ニチイ祭りなどに来て頂いたりして、相談し合える機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントや日々の生活の中で、1人1人がどう暮らしていきたいかを聞き、本人の理想の暮らし方に近づけるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日々の生活の中で、本人やご家族に伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で、利用者の現状を知るために日々の家事等をやって頂くことで、1人1人の現状を把握するように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から本人の様子について話し、その中で必要な部分をスタッフ間で話し合い、介護計画への反映に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、本人が行ったことやその中で気づいた事などを記入して頂く様にし、スタッフ全員が見れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のご利用者様の状況や、ニーズに対してその都度スタッフ間で話し合い、その状況に適した対応を行うように1人1人が心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様の誕生日に、近くのケーキ屋食べたいケーキなどを一緒に見に行き買いに行ったりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診医に来て頂き、利用している人を診ていただいている。利用していない人は、ご家族にかかりつけの病院へ連れて行って頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護師に来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際は、病院へ本人の生活状況などの情報を提供したり、入院中の状況を伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、終末期の対応については、ご家族の要望を聞き、本人の状況に合わせて要望に沿った対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当については、実際に専門の人に来て頂き、スタッフ全員で学ぶ機会を作っている。又、急変や事故発生時の対応マニュアルをフロアに掲示し、1人1人が目を通すようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練やm消防訓練などを用いて、災害時の対応方法を身につける機会を作り、その中でスタッフ1人1人が学ぶ事が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人に対して、プライバシーを損ねないような話し方や、声のトーンなどを常に意識しながら、ご利用者様と話すようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自分の思いや希望が話しやすい環境を作るなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活していただき、したい事などの希望があれば要望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様のご希望をを伺いつつ、季節感や気温に配慮し、アドバイスするように気をつけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様1人1人の好きなメニューや、食べ物を献立に組み入れ、楽しく食べて頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食べやすい大きさ、硬さなどを把握し、少しでも多くの栄養が取れるようにしている。又、水分は普段飲まない物を提供するなどして、水分量に片寄りが無いようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアへ誘導し、出来る人は自分で、出来ない人はスタッフがやるようにし、その際に口の中の状況を確認するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いながら失敗が少なくなるようにスタッフ間で話し合い支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日行い、便秘傾向にある方には、水分を促したりしている。それでも出ないときは主治医に相談を行うようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を尊重しつつ、体調などを考えながら、入浴支援を行っている。基本的には入る曜日が決まっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の入眠時間を把握し、必要に応じて入眠剤を使用するなどして、十分な睡眠が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用を個々で確認し、場合に応じて量を減らして頂く等している。又、年に1回薬剤師の人に来て頂き研修という形で学ぶ機会を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや食器拭き、洗濯物たたみなどご利用者様1人1人の能力に合ったことをやって頂くなどしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により一緒に買い物に行ったり、散歩に行かれるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、1箇所まとめてお預かりしているが、要望があった場合は一緒に買いに行くなど、自由に使えるようになっていく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様あてにきた郵便物は直ぐにお渡ししている。返事を書かれたときにはお預かりして投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には季節の飾り付けを行い、季節感を出すようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や、馴染みの物をお持ちいただく様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立した生活を送って頂けるように、行き過ぎたケアにならないように心がけている。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンターごてん

作成日 H30年 7月 7日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策において、近隣住民の方との訓練が出来ていない。	防災訓練時に、近隣の方にも参加していただく。	年2回の防災訓練前に近隣の方に、訓練に参加をしていただけるように周知を行っていく。	2019/3/31
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。